

# コカ・コーラ支援型自販機

業界最大数の清涼飲料自販機を持つコカ・コーラシステムはここ数年、社会貢献活動をサポートする「支援型自販機」を増やしている。使用電力削減による環境配慮、災害時における製品の無償提供などで社会に貢献してきた自販機事業の進化系と言えるが、これまでと違うのは売り上げの寄付先、設置先、消費者など多くの人々を巻き込んでいる点だ。システム最大のボトラーで、約70万台の自販機を管理するコカ・コーラボトラーズジャパン(CCBJI)に近況を聞いた。(聞き手 石母田景)

## コカ・コーラの支援型自販機とは

コカ・コーラボトラーズジャパンホールディングスを持株会社とするCCBJIグループは、「P a i n t i t R E D ! 未来を塗りかえろ。」を企業理念とし、「ミッション「すべての人にハッピーなひとときをお届けし、価値を創造する」の達成を目指している。清涼飲料の供給という



本業を通じ、地域が抱える課題を解決するため、「共創価値の創造(Creating Share d Value...CSV)」に取り組み、そのひとつとして消費者に身近な自販機を活用。製品購入を通じて気軽に社会貢献ができる支

## 寄付先、設置先、消費者を巻き込む

援型自販機を各地域で展開するもので、慣れ親しんだコカ・コーラ自販機をオリジナルデザインでラッピングするなど、啓発・PR効果も期待できる。

——どうやって支援内容を決める？

コカ・コーラシステムは清涼飲料市場のトップシェアであり、その一部のCCBJIグループは1都2府35県をカバーする巨大なボトラー集団。地域社会の健全さが持続的な事業活動の前提で

あるという考えのもと、各自自治体と連携して地域に根差した社会貢献活動を幅広く展開している。その密な関係の下で各地域が抱える社会課題を把握し、コカ・コーラシステムのマーケティングポ

リシーを遵守した上で、自販機での支援内容を決定する。

——どんな支援がある？

支援内容は様々で、2021年には静岡県浜松開誠館高等学校に「TABLE FOR TWO」自販機を設置した。日本発の社会貢献活動で、開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病の解消に同時に取り組む「TFI」と連携したものだ。売り上げの一部を「T

らッピングデザインは、万博の「EXPO 2025 Design System」を活用し、エレメントの一つで個のいのちを表す「ID」を

正面と側面にプリント。万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を表現している。

売り上げの一部は「2025年日本国際博覧会協会」に寄付し、万博開催に向けた機運醸成の取り組みに役立てる。

——「COKE ON」も活躍

他社も自販機事業に付随するサービスを展開しているが、コカ・コーラシステムの支援型自販機は、前述した地域との密着性による課題の明確な把握、トップ

シエア故の認知されやすさのほか、4500万超ダウンロードされているコカ・コーラブランド公式アプリ「Coke ON」が特徴的だ。

コカ・コーラ自販機と連動した、スタンプを集めるともらえるドリンクチケット、サブスクリプションなど様々なコンテンツを搭載したアプリで、社会貢献が楽しめる

一方、コカ・コーラシステムは「寄付先、設置先、お客様の三方よしを追求するのが支援型自販機。当社のミッション「すべての人にハッピーなひとときをお届けし、価値を創造する」を体現できる。このスキームは広く応用が可能だ」(CCBJI)と手応えを感じているようだ。

▼海外に行くに困るのが温水洗浄便座がないこと。短い期間なら我慢できる出汁の効いた日本食だが、温水洗浄便座は着いたときから帰国まで、ずっと頭から離れない。諸外国の人には「異様」な習慣かもしれないが、もう昔には戻れない。

「大阪・関西万博」とも連携。22年から、大阪府の日本万国博覧会記念公園に「大阪・関西万博支援型自販機」を設置している。

着性による課題の明確な把握、トップシエア故の認知されやすさのほか、4500万超ダウンロードされているコカ・コーラブランド公式アプリ「Coke ON」が特徴的だ。

支援型自販機に対しては、寄付先からの感謝のほか、消費者から「気軽に社会貢献できる」、設置先からも「企業PRにもつながる」と好意的な声が多い。

一方、コカ・コーラシステムは「寄付先、設置先、お客様の三方よしを追求するのが支援型自販機。当社のミッション「すべての人にハッピーなひとときをお届けし、価値を創造する」を体現できる。このスキームは広く応用が可能だ」(CCBJI)と手応えを感じているようだ。

「販売中」の表示があるスマートフォンが、自販機の画面に映し出されている。画面には「COKE ON」のアプリの画面が表示されている。

